論　文

**イスタンブルにおけるギリシア系住民のノスタルジー**

**―― 『ロクサンドラ』における母と働く女性の描写の差異と**

**ギリシア社会での受容 ――**

**福田　耕佑**

大阪大学大学院人文学研究科特任研究員（常勤）

日本学術振興会特別研究員（PD）

1. **はじめに**

　本稿はイスタンブルのギリシア人コミュニティ出身で後にアテネに定住した作家であるマリア・ヨルダニドゥの『ロクサンドラ』のを行う。

1. **『ロクサンドラ』について**

　本稿で取り上げる『ロクサンドラ』のあらすじや基礎的な情報、並びに作者のマリア・ヨルダニドゥの伝記については福田（2023）を参照されたい。

**1-1. 前年度の論文で達成したことと課題として残ったこと**

　先行する福田（2023）において達成したことは＜…＞同じギリシア人である本土ギリシア人に対して自分たちを異ならしめる重要なとして描かれたものが、習慣や生き方の違いといった要素であったということは重要である[[1]](#endnote-1)。

**2-1. 先行研究の紹介**

　日本における文学研究や研究の領域においては浅井（1991）や大原（1992）、また長峯、外山（2019）などを筆頭にノスタルジー概念を用いた研究は数多く存在する。

ドン！ ドン！ ドン！ 十一時だった。皆眠っていた。ロクサンドラの部屋で起きていたのは猫だけだった。猫と他の誰か一人がロクサンドラの上に身を乗り出す。

　　　―― おばあちゃん！

　　　―― アンナじゃない！

　　　―― 何かほしいものはない？

　　　―― ラハノドルマデスよ！ 私はね、餓死しかけてて、皆が私の死に装束を切ってやろうと集まってるのよ！

**参考文献**

Δράκου, Βίκη (2018), *Βικτωρία*, Εκδόσεις Νησίδες, Θεσσαλονίκη.

Κυρατζόπουλος, Βασίλης (2006), *Η Άγραφη Γενοκτονία Κωνσταντινούπολη Σεπτέμβριος 1955*, Εκδόσεις Τσουκάτου, Αθήνα.

Κωσνταντινίδης, Κωνσταντίνος (2023), «Μαρία Ιορδανίου: Η Αρχόντισσα του Οικουμενικού Θρόνου*»*, στο *Η Λογιοσύνη της Πόλης -Εκπαιδευτικοί και λογοτέχνες της σύγχρονης περιόδου*, Εταιρεία Μελέτης της καθ’ ημάς Ανατολής Σισμανόγλειο Μέγαρο – Γενικό Προξενείο της Ελλάδας στην Κωνσταντινούπολη, Αθήνα, σσ. 172-177.

Psichari, Jean (1892), *Jalousie*, Typographie Chamerot et Renouard, Paris.

浅井俊裕（1991）「「ノスタルジー」という小さな神話：『明るい部屋』に寄せて」日本映像学会編『映像学』第四十四号、pp. 14-26, 95.

沢井理恵（1996）『私の「京城」私のソウル』草風館.

1. 福田, 2023, 49-50.

**Yannis Maris, “Father of the Greek Crime Novel”:**

**Charms and Changes in His Works**

**Takashi TACHIBANA**

*National Taichung University of Science and Technology*

*Department of Japanese Studies*

It is broadly accepted that the genre of the modern Greek crime novel was established by Yannis Maris (1916–1979). Although some literary masters in the 19th century incorporated some factors of mystery into their works, the status of Maris as the “father of the Greek Crime Novel” is undeniable in the quality, quantity, and influence of his works. [↑](#endnote-ref-1)